

第6号議案

事業間連携砂防等事業(急傾斜)
あのうがわちく まち
阿能川地区 みなかみ町

着手年度
評価理由

平成30年度
国の規定

1. 事業の概要

県土整備プランの位置づけ:

政策1: 災害レジリエンスNo.1の実現

施策3: 防災インフラの整備(中長期レジリエンス戦略)

- 本箇所は土砂災害警戒区域であり、豪雨時等にかげ崩れが発生する恐れがある。
- 本事業は、がけ崩れから避難所(阿能川会館)、人家6戸、消防団詰所及び県道相俣湯原線を保全するために対策工事を実施するものである。



事業箇所

対策範囲



事業場所	とねぐん まちあのうがわ 利根郡みなかみ町阿能川	
区分	従前の計画公表値	今回
全体事業費	297百万円	390百万円
全体事業費増減の理由	—	・資材価格や労務単価高騰による増額 ・擁壁高の変更による増額
事業期間	H30~R9	H30~R9
事業内容	待受擁壁工 62.2m 崩壊土砂防護柵工 102.7m	待受擁壁工 63.0m 崩壊土砂防護柵工 110.0m

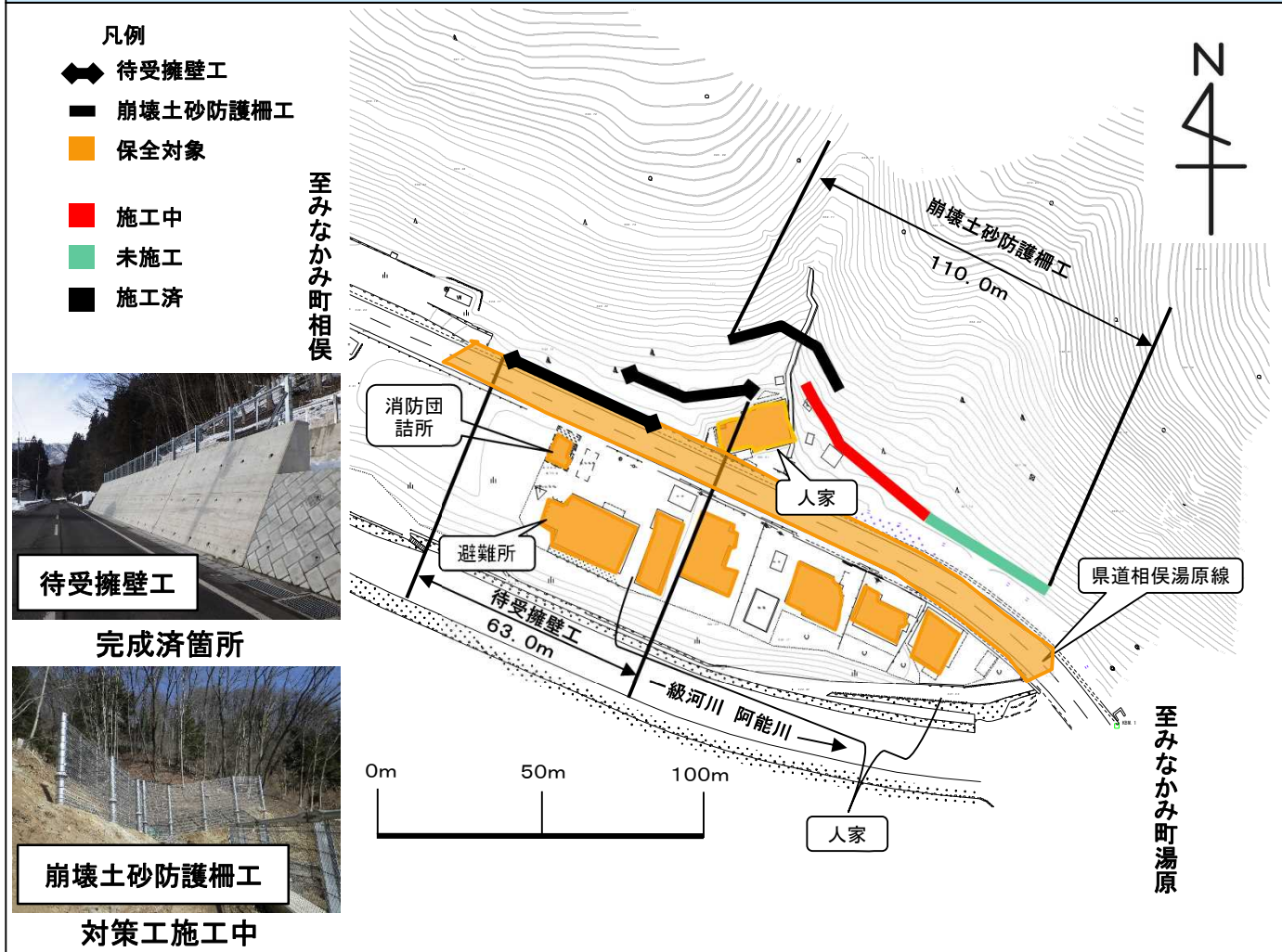
2. 進捗状況

事業経緯

進捗状況

年度	主な経緯	全体計画	前年度までの進捗状況(進捗率)
H30~R1	測量・詳細設計		
R1	用地測量・買収	事業費 390百万円	210百万円 (53.8%)
R2~	工事着手	用地取得 1,930m ²	1,930m ² (100%)
		待受擁壁工 63.0m	63.0m (100%)
		崩壊土砂防護柵工 110.0m	27.5m (25.0%)

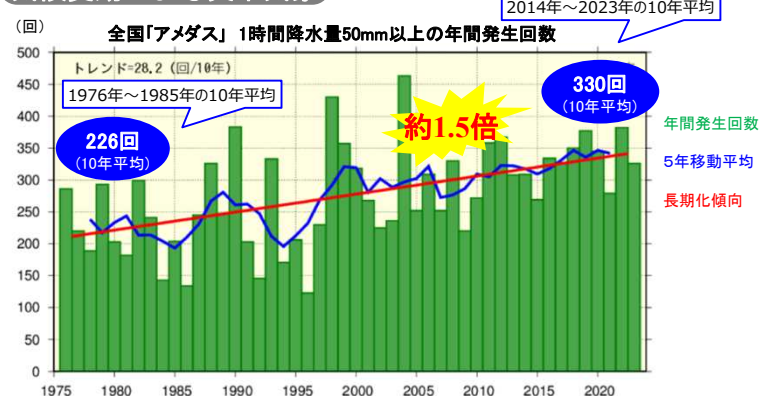
2. 進捗状況(図面・写真等)



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- 本事業の目的は、がけ崩れから避難所(阿能川会館)、人家6戸、消防団詰所及び県道相俣湯原線を守ることであるため、目的に変わりはない。
- 当該箇所は急勾配で、がけ高が高い急傾斜地であり、また、近年気候変動の影響等により、50mm/h以上の非常に激しい豪雨の発生回数が増えていることから、がけ崩れ発生の恐れが高まっているため、本事業の必要性に変わりはない。

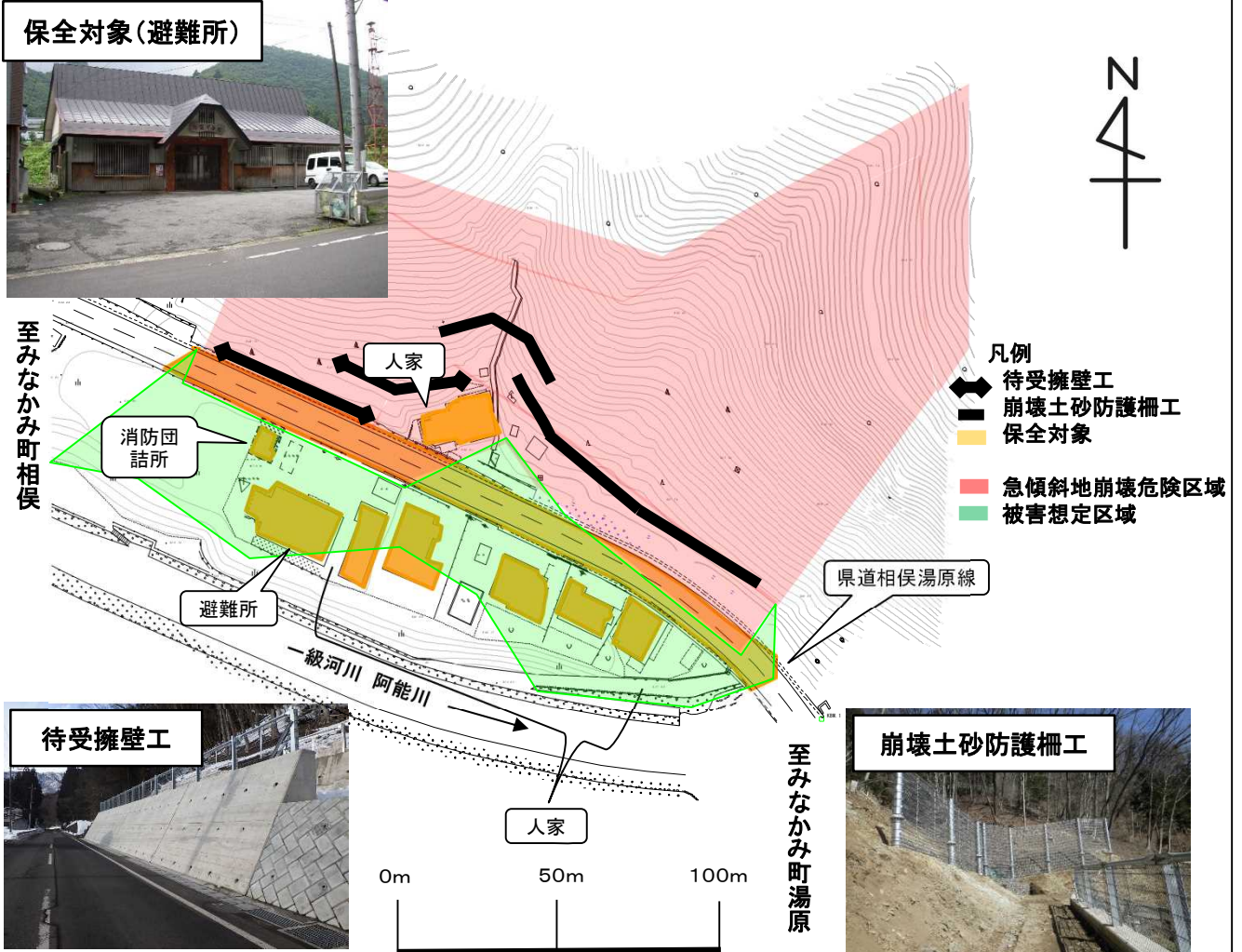
気候変動による異常気象



急勾配の斜面状況

4. どのような事業効果が見込めるか？

- 本事業を実施することにより、避難所である阿能川会館、人家6戸、消防団詰所及び県道相俣湯原線をがけ崩れから保全し、土砂災害リスクを軽減する効果が見込める。



費用便益分析

	事業全体		残事業	備考
	事業採択時	今回再評価時	今回再評価時	
費用合計 (C)	319,945千円	435,729千円	122,280千円	・資材価格や労務単価高騰による増。 ・擁壁高の変更による増。
便益合計 (B)	956,714千円	951,616千円	209,437千円	・国のマニュアル改定と最新の統計資料を用いたことによる減。
費用対効果分析 (B/C)	2.99	2.18	1.71	

5. 事業手法やコストは妥当か？

【事業採択時の計画(事業費)を変更する理由】

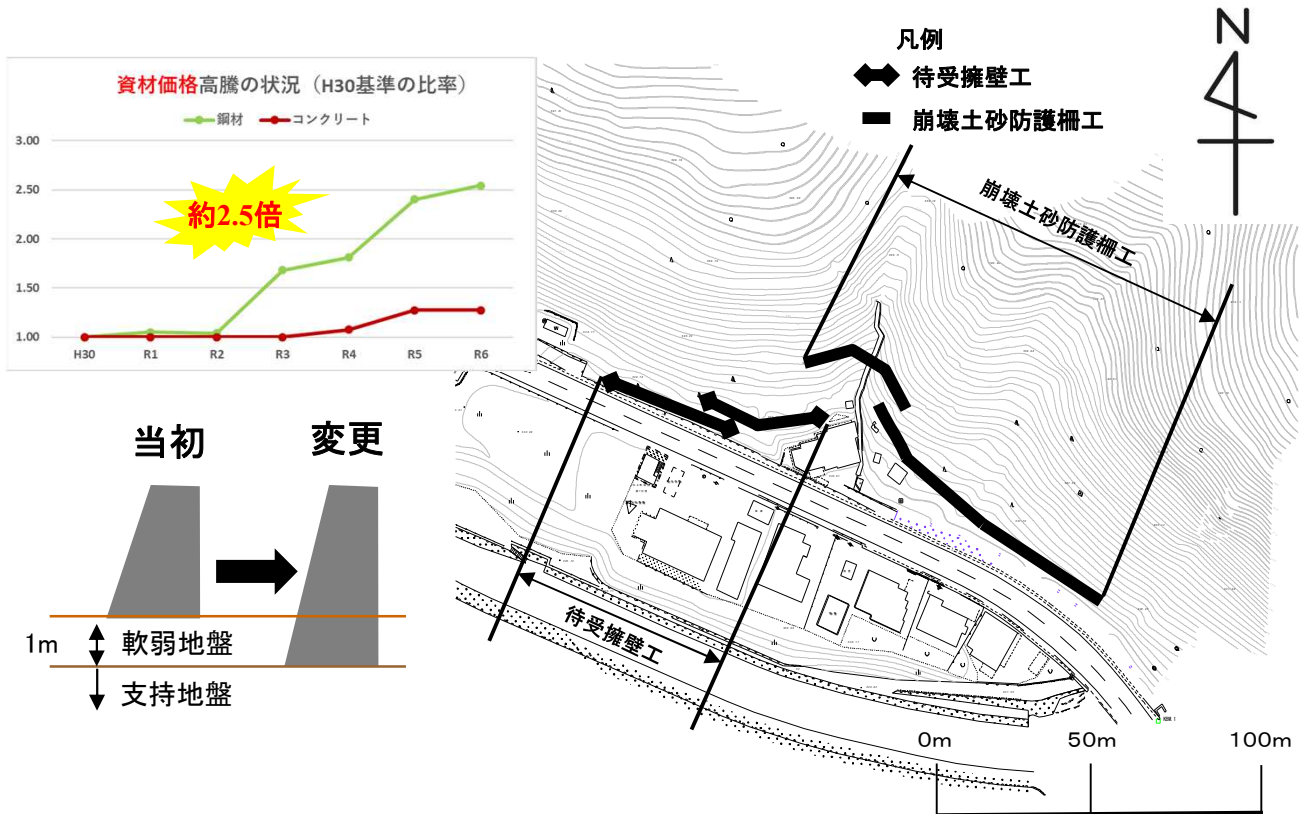
[事業費の増額理由]

1. 資材価格や労務単価高騰による増額(+0.8億円)

- 事業採択時点から令和6年度までの資材価格や労務単価高騰による増額のため。

2. 擁壁高変更による増額(+0.13億円)

- 地質調査の結果、想定外の軟弱地盤が確認され、待受擁壁工の底版を支持地盤まで定着させる必要があることが判明したことから、擁壁の根入れを1m深くしたため。



【今回の変更計画の妥当性】

- 待受擁壁工の根入れ深さ変更については、必要な支持力確保のためであり、他の工法と比較検討した結果最も経済的であるため妥当である。

【事業費の縮減に向けた取り組み】

- 対策工法の選定にあたり、様々な工法を比較検討し、コストが最小になるよう計画している。

6. 事業実施にあたり、配慮した事項はあるか？

- 切土が生じた箇所は、植生マットを敷設することで、早期植生回復に努めている。



植生後のイメージ

7. 事業が長期間要している理由と今後の見通しは？

【事業が長期間要している理由】

- ・ 事業期間については、計画どおりである。

【今後の見通し】

- ・ 用地取得率は100%となっているため、令和6年度以降は残りの崩壊土砂防護柵工事を進め、令和9年度に完了する見込みである。

8. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

- ・ 本事業は、土砂災害警戒区域に位置づけられている阿能川地区のがけ崩れ災害を防止するため、崩壊土砂防護柵工、待受擁壁工を実施する事業である。
- ・ 被害想定区域には、避難所1箇所、人家6戸、消防団詰所及び県道相俣湯原線があり、がけ崩れが発生すると地域住民の人命や生活に多大な影響を与えるため、早急な対策が必要である。
- ・ 令和5年度末までに崩壊土砂防護柵工27.5m、待受擁壁工63.0mが完了しており、引き続き残りの工区を進め、早期に完成を図りたい。
- ・ 近年、全国的に豪雨が増加傾向にあり、がけ崩れ発生リスクも高まっている中で、本事業の必要性は高く、早期の効果発現を図ることが適切であり、事業継続が妥当である。

9. 市町村意見

市町村	再評価における意見
みなかみ町	阿能川地区における豪雨時によるがけ崩れから地域住民の人命、財産を守るために必要な当該事業の早期整備に向けてご尽力いただきたい。